

# 平成 22 年（2010 年）3 月期決算概要

2010 年 5 月 11 日

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅葉 修  
問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治  
: (TEL) (06) 7635-1636

## (1) 当期の事業の経過およびその成果

当期の当社経営環境は、中国、韓国、台湾を中心とするアジアでの需要拡大が続き、全般的な景気動向は緩やかな回復基調を辿りました。特に、2010 年に入ってからでは電気・電子、化学品関連の事業分野において景気の持ち直しが一段と鮮明になりました。

その一方、衣料・インテリア分野が在庫調整や消費者の低価格志向の影響を大きく受け、また資材分野が国内の自動車・住宅業界の回復遅れにより低調に推移したこと等、世界経済危機を発端とする国内需要減の影響が長引いた分野もありました。

このような事業動向の中、当社は業績の落ち込みを最小限に留めるために徹底した経費の圧縮、在庫削減、高付加価値品へのシフトを進めて参りましたが、売上高は1,018億3千4百万円(前期比47億7千5百万円、4.5%の減収)、営業利益は19億1千7百万円(前期比4億2千5百万円、18.1%の減益)、経常利益は19億2千4百万円(前期比4億6百万円、17.4%の減益)、当期純利益は9億9千3百万円(前期比1億2千5百万円、11.2%の減益)となりました。

### 【業績】

(単位：百万円)

	当期(2009/4~2010/3)		前期(2008/4~2009/3)		増減額	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減額
売上高	101,834	-	106,609	-	△4,775	△4.5%
営業利益	1,917	1.9%	2,342	2.2%	△425	△18.1%
経常利益	1,924	1.9%	2,330	2.2%	△406	△17.4%
当期純利益	993	1.0%	1,118	1.0%	△125	△11.2%

以下「 」の中の名称は(株)クラレの商標です。

## (2) 営業の概況

### <繊維関連> (減収、減益)

売上高は400億円。前期比85億円(17.5%)の減収。

#### (衣料分野)

- スポーツ分野は、高機能素材の販売が拡大しましたが、学校体育衣料向けが在庫調整の影響を受け、減収となりました。
- ユニフォーム分野は、サービス向けが回復に向かいましたが、ワーキング向けはアパレルでの在庫調整が長引いたことから低調な販売となり、全体として減収となりました。
- 婦人・紳士分野は、婦人向け主力商品の「エルモザ」が順調に推移した他、杢素材「ソルビア」の

立ち上がりにより回復しましたが、紳士向けの不振をカバーできず、減収となりました。

- ブラックフォーマル分野は、消費低迷による百貨店、量販店販売の不振が大きく影響し、減収となりました。
- 輸出は、欧州向け高級衣料の販売が減少し、また、中東向けもドバイショック後の需要減・円高の影響を受け、減収となりました。

以上の結果、衣料分野は減収、減益となりました。

#### **(資材分野)**

- メディカル関連資材は、好調な需要を背景に販売が拡大しました。
- 産業資材は、土木・建築用ビニロンが堅調に推移し、自動車用資材のブレーキホースが順調に回復しましたが、伝統用途の市況低迷が影響し、全体として減収となりました。
- 「クラリーノ」は、靴用途では一部ウォーキング分野が堅調に推移したものの、靴全体では低調な販売となりました。また、衣料・軽工品用途は市況の低迷、在庫調整の長期化影響があり、全体として減収となりました。

以上の結果、資材分野は、減収、減益となりました。

#### **<樹脂・化学品・化成品関連> (増収、増益)**

売上高は618億円。前期比37億円(6.3%)の増収。

- ポパールフィルムは、液晶関連需要の堅調な拡大を背景に販売が大きく伸長しました。一方、ポパール樹脂は中国・韓国向けに販売を拡大しましたが、国内向けは繊維分野が市況低迷により苦戦しました。
- 「エパール」フィルムは、主力の食品包材用途が堅調だったことに加え冷蔵庫用断熱板用途の販売が拡大し、住宅市況の低迷による壁紙用途の落ち込みをカバーして、増収となりました。
- 溶剤等化学品関連は、需要の回復や顧客開拓により販売量を伸ばし、増収となりました。
- 熱可塑性エラストマー「セプトン」は、中国・台湾向け輸出を中心に販売量が拡大し、増収となりました。
- 耐熱性ポリアミド樹脂「ジェネスタ」は、LED用反射材用途が家電メーカーでのLED-TVおよびノートPCの生産増を背景に大きく伸長し、またコネクタ用途も回復基調にあり、増収となりました。
- メタアクリル関連は、液晶TV用導光板向けにペレットやシートの販売が順調に回復しましたが、看板等汎用シートでの販売減影響が大きく、全体として減収となりました。
- 環境関連資材は、装置関連が企業の設備投資抑制の影響から受注回復に遅れが見られましたが、フィルターや活性炭の販売が着実に拡大し、全体として増収となりました。

### (3) 年度業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

次期の経営環境につきましては、原燃料価格上昇や円高の影響が懸念されますが、景気の状態が持ち直しつつあることから拡販を織込み、また、引き続き経費の圧縮や在庫削減に取り組むことにより、下表の通り売上高 1,100 億円、営業利益 25 億円と、増収・増益を予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期公表 (対前期比)	1,100 (+8.0%)	25 (+30.4%)	25 (+29.9%)	13 (+30.9%)

<注記>本業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### (4) 中期基本戦略

アジアを中心とする新興国での経済発展が牽引役となり、世界景気を持ち直しが進行すると共に、販売の回復が遅れ気味に推移した分野でも回復のすそ野が広がりつつあります。

このような基調の中、当社はクラレ商材の拡販はもちろんのこと、独自ビジネスの育成・強化、アジアを中心とする海外ビジネスの拡大に注力し、過去最高業績の 2007 年度売上・利益(売上高 1,260 億円、営業利益 29 億円)への一刻も早い回帰を目指し、全社一丸となって取り組んでおります。

1. 販社、商社、メーカーとしての三機能の更なる充実と、それを通じた顧客満足度の一層の向上
  - 海外を含む新規市場・用途開発に関する情報収集力、販売力の強化
  - 専門的な商品情報力、サービス力、ソリューション力の強化
2. 収益構造の一層の改善
  - 効率経営の継続(経費・コスト・在庫の圧縮、人材の適正配置)
  - 高付加価値ビジネスへのシフトによる収益率の一層の向上
3. 新規ビジネスの創出
  - 新事業・新規マーケットの創出
  - 選択と集中による開発テーマの取組み加速

以 上